

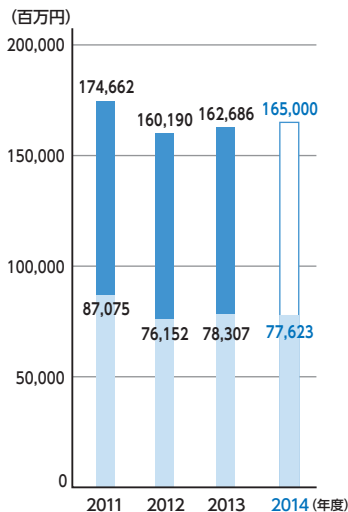
株 主 通 信

平成26年4月1日～平成26年9月30日

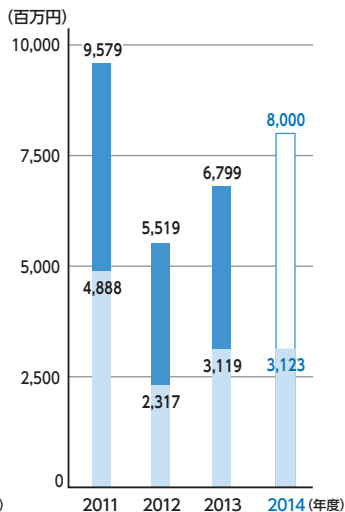


業績の推移

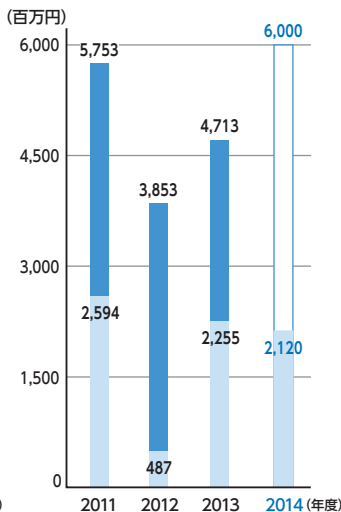
■ 連結売上高



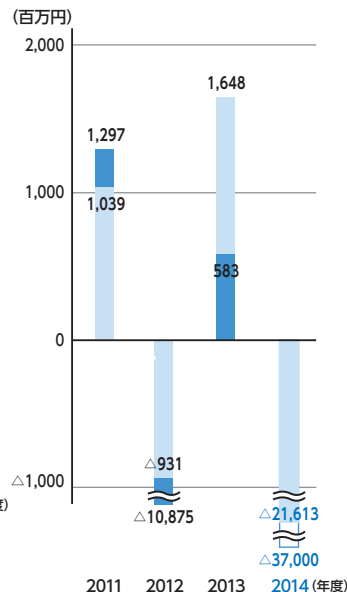
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益



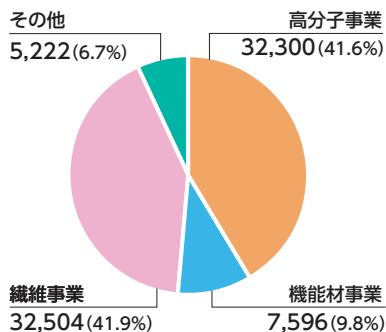
■ 連結当期純利益



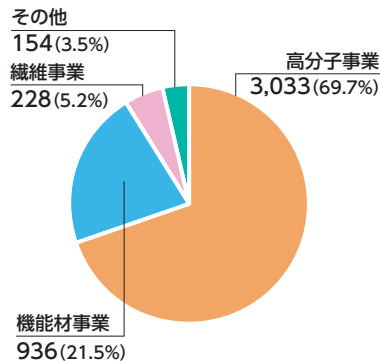
■ 通期 ■ 第2四半期累計 □ 通期予想

■ セグメント別 当第2四半期累計期間における連結売上高・連結営業利益 (単位:百万円)

連結売上高 (構成比)



連結営業利益 (構成比)



連結売上高

合計 77,623百万円

連結営業利益

合計 3,123百万円

※セグメント別の連結営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております (合計4,352百万円)。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第205期第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から同9月30日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、日銀による金融緩和策の継続や政府の機動的な財政支出により緩やかな景気回復基調を示していましたが、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動や天候不順による消費不振の影響を受けました。一方、海外は、中国を始め新興国経済の減速が続くなど、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは、本年度からスタートした新中期経営計画に掲げる成長戦略の早期実現に向け、高分子事業を中心とする機能資材メーカーとしての基盤強化及び低採算事業の構造改革に努めてまいりました。また、7月末に第三者割当による種類株式約375億円の払込手続が完了し、有利子負債の大幅な圧縮及び成長投資のための資本増強を完了しました。一方、事業ポートフォリオ改革の一環として、当社及び当社グループの豊橋事業所などに係る固定資産に関する減損損失や連結子会社であるユニチカスピニング株式会社の事業縮小に伴う事業構造改善費用などの特別損失を計上しました。この結果、当第2四半期連結累計期間につきましては、売上高は77,623百万円(前年同四半期比0.9%減)、営業利益は3,123百万円(同0.1%増)、経常利益は2,120百万円(同6.0%減)、四半期純損失は21,613百万円(前年同四半期は1,648百万円の利益)となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、増強した資本を含む経営資源を成長事業である高分子事業に重点的に投下し、成長市場であるアジア地域での拡販と、国内外での高付加価値品の展開を図ります。具体的には、フィルム事業では、高機能フィルムなどの差別化製品の製造能力増強を行い、国内・中国向けに差別化フィルムの拡販を加速いたします。樹脂事業では、戦略アイテムである「アローベース」や「ゼコット」などの製造能力増強を行い、これら高機能樹脂の拡販を実施いたします。また、不織布事業では、アジア地域でのシェア拡大に向け、タイの子会社タスコにおける新機台の増設を行い、東南アジア市場へのポリエステルスパンボンドの拡販を進めます。

また、全ての事業について、収益性、将来性、グループシナジーを踏まえて峻別し、低採算事業及びノンコア事業の縮小・撤退などによる事業ポートフォリオ改革を加速いたします。

新中期経営計画の実現に向け、スピードをもって経営施策を進めるとともに、全社員が一丸となって「新生ユニチカ」を実現するために、不退職の覚悟で取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月



代表取締役社長

注連 浩行

フィルム事業では、包装分野は、消費税増税後の食品や生活雑貨の消費低迷などの影響を受け、国内では販売数量、売上げともに減少しましたが、海外向けは堅調に推移しました。工業分野は、電気・電子機器用途の市況回復により、販売数量、売上げともに増加しました。この結果、事業全体で増収減益となりました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、自動車用途の販売が堅調に推移しましたが、期後半は伸び悩みました。当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、事務機器関連は堅調でしたが、情報端末機器用途は低調に推移しました。戦略アイテムである「アローベース」や「ゼコット」は用途展開が進みました。この結果、事業全体で増収減益となりました。



直線カット性で開封性に優れる
ナイロンフィルム「エンブレムNC」



「Uポリマー」使用
自動車ターンランプ アンバーキャップ



除染廃棄物処理用建築資材
「エルベスキャッピングシート」



バイオマスプラスチック「テラマック」
幼児用食器「iiwan」

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、海外では堅調に推移しましたが、国内では消費税増税後の市況低迷の影響を受け、生活資材用途を中心に売上げが減少しました。コットンスパンレーズは、ウェットシート用途は好調に推移し、その他の用途でも輸出を含め堅調に推移したため、売上げは増加しました。この結果、事業全体で減収増益となりました。

以上の結果、高分子事業の売上高は32,300百万円（前年同四半期比0.6%減）、営業利益は3,033百万円（同5.4%減）となりました。

■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 32,300百万円

営業利益

合計 3,033百万円

セグメント別の状況

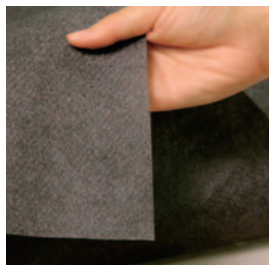
機能材事業

ガラス繊維事業では、産業資材分野は、建築・土木用途の防水シートなどを中心に販売は堅調に推移し、売上げが増加しました。電子材料分野も、ICクロスは半導体やスマートフォン用途で差別化品である超薄物タイプの販売が堅調に推移し、売上げが増加しました。ガラスビーズ事業では、ロードマーキング用途で売上げが減少しましたが、自動車向けなどの工業用途で売上げが増加し、反射材用途もシェアの回復に努めた結果、売上げが増加しました。また、活性炭繊維事業では、浄水器用途は堅調でしたが、自動車用途、空気清浄機用途などは低調に推移しました。

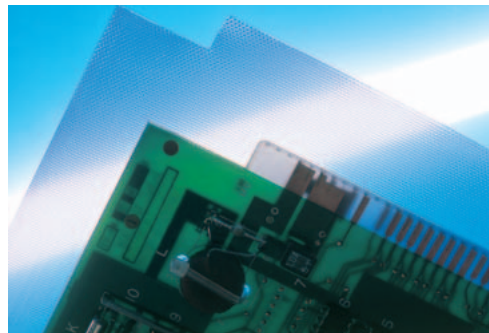
以上の結果、機能材事業の売上高は7,596百万円（前年同四半期比5.9%増）、営業利益は936百万円（同7.0%増）となりました。



ガラスビーズ「ユニビーズ」
使用道路（白線）



高性能VOC除去シート



プリント配線基板用ICクロス



活性炭繊維フィルター「デキシーフィルター」

■機能材事業 売上高・営業利益

売上高

合計 7,596百万円

営業利益

合計 936百万円

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は、主力の建築・土木分野が好調に推移し、ポリエステル短繊維は、コスト削減施策や低採算製品の販売縮小などが奏功し、収益は改善しました。ビニロンは、アスベスト代替のセメント補強用途で、欧州及び新興国向けで高採算製品への販売転換が進み、売上げが増加しました。また、ビニロンフィラメントなどの価格改定の効果もあり、全体として収益は改善しましたが、コスト削減など更に収益の改善を進めてまいります。

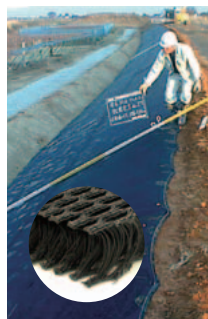
衣料繊維事業では、ユニフォーム分野は、円安による海外生産品の調達コスト上昇などの影響を受けたものの、ワーキング用途の市況回復などにより売上げが増加しました。また、スポーツ分野は、国内市場で苦戦しましたが、レディース分野は、ニット素材を中心に堅調に推移しました。



カーシート用途



建設資材用途



土木用途



衣料用途

以上の結果、繊維事業の売上高は32,504百万円(前年同四半期比0.1%減)、営業利益は228百万円(前年同四半期は142百万円の損失)となりました。

■繊維事業 売上高・営業利益

売上高

合計 32,504百万円

営業利益

合計 228百万円

セグメント別の状況

その他

生活健康事業では、「白幻鳳凰」などの健康食品が、消費税増税の影響により低調に推移しましたが、セラミドを中心とした機能性食品原料や飼料原料は好調でした。

メディカル事業では、循環系カテーテルの新製品クワッドルーメンタイプや海外向け酵素の売上げが増加しましたが、診断薬の売上げは減少しました。

不動産関連事業では、一部の開発用不動産の分譲中止により、売上げが減少しました。

以上の結果、その他の売上高は5,222百万円（前年同四半期比14.7%減）、営業利益は154百万円（同66.9%減）となりました。



健康食品



医用材料



臨床検査薬



不動産関連事業

■ その他 売上高・営業利益

売上高

合計 5,222百万円

営業利益

合計 154百万円

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成26年9月30日)
(資産の部)		
流動資産	99,370	106,587
固定資産	154,811	134,459
有形固定資産	148,588	127,925
無形固定資産	1,201	1,279
投資その他の資産	5,020	5,254
資産合計	254,181	241,046
(負債の部)		
流動負債	144,555	38,539
固定負債	90,257	166,229
負債合計	234,813	204,768
(純資産の部)		
株主資本	19,245	34,597
その他の包括利益累計額	△ 3,705	△ 2,010
少数株主持分	3,828	3,692
純資産合計	19,368	36,278
負債純資産合計	254,181	241,046

負債

2,047億68百万円
(前期比 300億44百万円 減)

負債は、前連結会計年度末に比べ、300億44百万円減少し、2,047億68百万円となりました。これは、主として有利子負債が減少したことによります。

株主資本

345億97百万円
(前期比 153億51百万円 増)

平成26年7月31日に第三者割当による種類株式の発行に伴う資金が払い込まれたことなどにより、株主資本は345億97百万円となりました。

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

財務諸表 (要旨)

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	78,307	77,623
売上原価	63,714	62,640
売上総利益	14,592	14,982
販売費及び一般管理費	11,473	11,858
営業利益	3,119	3,123
営業外収益	1,072	1,083
営業外費用	1,936	2,085
経常利益	2,255	2,120
特別利益	462	—
特別損失	501	23,667
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,216	△21,546
法人税等	546	65
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	1,669	△21,612
少数株主利益	21	0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,648	△21,613

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

特別損失

236億67百万円
(前期比 231億66百万円 増)

事業ポートフォリオ改革の一環として、当社及び当社グループの豊橋事業所などに係る固定資産に関する減損損失や連結子会社であるユニチカスピニング株式会社の事業縮小に伴う事業構造改善費用などの特別損失を計上しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,383	5,348
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,545	△2,249
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,525	8,557
現金及び現金同等物に係る換算差額	157	△35
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,520	11,620
現金及び現金同等物の期首残高	19,636	19,557
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,157	31,177

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

地上波テレビコマーシャル放送中

ユニチカフィッシングライン

ユニチカは、今年10月からサンテレビ『ルアルアチャンネル』の広告スポンサー契約を締結し、「ユニチカフィッシングライン」のテレビコマーシャルをスタートしました。『ルアルアチャンネル』は、今人気のソルトルアーを中心に、釣りの第一人者といわれる方々が、タレントの皆さんに分かりやすく教えながら、釣りのおもしろさを伝える、初心者から経験者までに楽しんでもらえる番組です。ユニチカは、これまで、エギングフェスタやセミナーなどのイベントやフィッシングショーなどで「ユニチカフィッシングライン」をPRしてきました。今回、新たに番組及びテレビコマーシャルを通じ、「ユニチカフィッシングライン」を広くPRしていきます。



サンテレビ 『ルアルアチャンネル』
毎週月曜日 20時54分～21時24分

【ユニチカフィッシングランド】<http://www.unitika.co.jp/fishing/>

※『ルアルアチャンネル』は、関西一部地域及び番組ホームページ(<http://lure-ch.tv/index.html>)でご覧になれます。

うるおいと輝きをサポートする美容補助食品

「ぶるきら生活」発売 (初回限定特別価格(期間限定)で販売中)

ユニチカは、美容補助食品「ぶるきら生活」を販売開始しました。「ぶるきら生活」には、自社開発の機能性食品素材であるセラミドとβ-クリプトキサンチンが配合されています。セラミドには、肌の水分蒸発を抑え、紫外線などの外部刺激から守るバリア機能があります。β-クリプトキサンチンは、うんしゅうみかんに多く含まれるだいたい色の色素であり、カロテノイドと呼ばれる一群の色素成分のひとつです。活性酸素によるダメージから細胞を守る働きがあり、透明感のある肌へと導く素材として注目されています。また、生き生きと過ごすための元気の素であるコエンザイムQ10、ほかほか食材として親しまれ、めぐりをサポートするショウガエキス、健康と美容にうれしいビタミン類も配合しました。ユニチカオンラインショップでは、「ぶるきら生活」発売記念として特別価格(半額)で販売しています。ぜひ、一度お試しください。



通常価格 4,320円(税込)

【お問合せ先】生活健康事業部 フリーダイヤル:0120-541-870 【ユニチカオンラインショップ】<http://www.utk-shop.jp/>

ユニチカグループの紹介

ユニチカトレーディング・インドネシア

ユニチカトレーディング・インドネシアは、更なる経済成長が見込まれるインドネシアを始めASEAN地域の販売拠点として、2014年3月に設立され、同年11月から本格的に業務を開始しました。ユニテックス^{※1}の先染生地を使用したカジュアルシャツやユニフォームシャツの生産、及びユニチカメイト(株)^{※2}が手掛ける学校体育衣料で、生地から縫製品までの一貫生産を行います。ユニテックスやユニチカトレーディング・ベトナム^{※3}とシナジーを生み出し、ユニチカグループ独自の加工技術を駆使した機能性差別化糸を始めとする魅力ある商品で、日本及びASEAN地域でのビジネス拡大を図ります。

【会社の概要】

社名：PT. UNITIKA TRADING INDONESIA

代表者：斉藤環

事業内容：繊維原料、各種繊維製品、産業資材、生活関連用品の生産及び販売

所在地：インドネシア共和国 ジャカルタ市

設立：2014年3月27日

資本金：US\$ 300,000

出資者：ユニチカトレーディング(株)99%
ユニチカ(株)1%



PT. UNITIKA TRADING INDONESIA
Ratu Plaza Office Tower Lt 30, Jl. Jend. Sudirman
Kav. 9, Jakarta 10270, INDONESIA
Tel.+62-21-2904-4180 Fax.+62-21-2904-4181

※1 ユニチカ(株)連結子会社。先染織物、後染織物の製造・販売会社(所在地 インドネシア)。

※2 ユニチカ(株)連結子会社。学校体育衣料他スポーツウェアの企画製造・販売会社(所在地 大阪市)。

※3 ユニチカ(株)連結子会社。輸出入業務、繊維原料等販売会社(所在地 ベトナム)。

株式の状況 (平成26年9月30日現在)

1. 発行済株式の総数	普通株式	577,523,433株
	A種類株式	21,740株
	B種類株式	5,759株
	C種類株式	10,000株
2. 株主数	普通株式	58,246名
	A種類株式	1名
	B種類株式	2名
	C種類株式	1名

3. 大株主

株主名	株式数	持株比率
株式会社三菱東京UFJ銀行	普通株式 23,345千株	4.05%
	A種類株式 21	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 14,445	2.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 13,504	2.34
ユニチカ従業員持株会	普通株式 12,878	2.23
アーク証券株式会社	普通株式 9,259	1.60
大同生命保険株式会社	普通株式 8,000	1.38
東京海上日動火災保険株式会社	普通株式 6,498	1.12
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	普通株式 6,361	1.10
ユニチカ共栄会	普通株式 6,137	1.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	普通株式 6,037	1.04

(注1) 持株比率は自己株式(789,597株)を控除して計算しております。

(注2) 上記A種類株式(種類株主 株式会社三菱東京UFJ銀行 21,740株)のほか、B種類株式(種類株主 株式会社みずほ銀行 3,635株/三菱UFJ信託銀行株式会社 2,124株)及びC種類株式(種類株主 ジャパン・インダストリアル・ソリューションズ第9号投資事業有限責任組合 10,000株)を平成26年7月31日に発行いたしました。

(注3) 種類株式は、A種、B種、C種とも、無議決権株式であります。

会社の概要 (平成26年9月30日現在)

社名 ユニチカ株式会社

創立 明治22年6月19日

資本金 100,450,000円

本店 兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地

大阪本社 〒541-8566

大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号

電話06-6281-5722

(人事総務部法務グループ)

東京本社 〒103-8321

(10月6日編) 東京都中央区日本橋本石町四丁目6番7号

電話03-3246-7540

(東京総務部)

研究所 中央研究所(宇治)

事業所 宇治事業所・岡崎事業所・貝塚事業所

垂井事業所・豊橋事業所・坂越事業所

営業所 名古屋

従業員数 連結 4,571名 単体 1,268名

役員 (平成26年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員	辻連 浩行
取締役専務執行役員	山口 裕正
取締役常務執行役員	松永 卓郎
取締役上席執行役員	上埜 修司
取締役上席執行役員	阪田 誠造
取締役上席執行役員	長谷川 弘
取締役相談役	安江 健治
社外取締役	齋藤 進一
監査役(常勤)	永田 直彦
監査役	吉田 俊朗
社外監査役	半林 亨
社外監査役	軒原 正夫
社外監査役	高 捷雄

執行役員 (平成26年9月30日現在)

上席執行役員	田頭 弘美
上席執行役員	榎田 晃
上席執行役員	森川 光洋
執行役員	小畑 政信
執行役員	細田 雅弘
執行役員	竹歳 寛和
執行役員	富岡 弘之
執行役員	岡 和貴

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ウェブサイトに掲載）
<http://www.unitika.co.jp/ir/notice/index.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

